

(様式第4号)

### 上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

|             |  |
|-------------|--|
| 1 審議会名      | 上田市公立大学法人評価委員会 (第6回)   |
| 2 日時        | 令和4年12月20日 午前9時30分から午前12時00分まで                               |
| 3 会場        | 長野大学4号館3階 教授会室 (web会議併用)                                     |
| 4 出席者       | 田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員                       |
| 5 市側出席者     | 大矢政策企画部長、北沢学園都市推進室長、堀内大学改革担当参事、中山大学改革担当政策幹、堀内学園都市推進担当係長、倉澤主査 |
|             | 公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開          |
| 6 公開・非公開    | 理由：法人の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、非公開情報が含まれるため。                |
| 7 傍聴者       | 0人 記者 1人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席                             |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和5年 1月5日  |

#### 協議事項等

|       |   |
|-------|---|
| 1 開会  |   |
| 2 議事  | (1) 公立大学法人長野大学 第2期中期計画 (案) について   |
|       | ○資料に基づき、事務局が説明  |
| (委員)  | 今日の評価委員会で行うことは何か。   |
| (事務局) | 中期計画の現在の状況について大学から報告する。全体に関わる大きな意見をいただき、22日の締切までにさらに意見をお聞きし、中期計画の認可に向けて協議を進める。また、3その他で今後の予定と理工系学部設置にかかる進捗状況について説明する。                                      |
| (委員)  | 質問や疑問点が沢山あり、今日の時間内では難しいと考えている。質疑は書面で行うということか。第1期と比べて圧縮されており何を言いたいのか、隠れてしまっている点があるので、事実関係が分からない現状で、22日までに意見を出すのは無理だと考える。そのため、22日までに細かい質問を出すのかと考えていたがよろしいか。 |
| (事務局) | 質問を22日までにいただき、大学側に回答を求めてまいりたい。  |
| (委員長) | 次回、1月17日は何を行うのでしょうか。  |
| (事務局) | 中期計画を認可するための意見書の確認。意見書の取りまとめを2月までに行いたい。   |
| (委員長) | 22日までに質問を受け付け、その後、意見が出てくるかと思うので、締切以降も1月中旬位まで意見を出すことは認められているとこうことで良いのでしょうか。  |
| (事務局) | 22日以降も質問を受け付けられるよう日付を調整したい。   |
| (委員)  | 前回の議事録を見ると、1月に相当議論を行っているが、今回早める理由は。もっと審議の時間を取って欲しい。   |

(事務局) 3月議会で中期計画を報告する。6年前は第1期のため、違うスケジュールで実施していた。4月から始まる第2期にあわせ、3月議会に報告したいと考えている。

(委員) 3月議会であれば、2月は審議できるのではないか。

(事務局) 2月中旬から市議会が始まる。逆算してこのスケジュールで実施している。

(委員長) 評価委員会をもう一度開くことは可能なのか。

(事務局) 2月上旬まで開催することは可能。また、6年前は3月に公立大学法人自体が存在していないため、4月以降に中期計画について議会にかけたと記憶している。

(委員長) 通常ベースであれば3月までにできなければおかしく、議会への報告を考えると2月の中旬までにはできていなければということか。

(事務局) その通り。

(委員) 前回は参加していたが、中期目標も中期計画も第1期はどういう構成にするか、この細かさで良いのか、これは評価する仕組みにできるのか、を検討するにあたってかなりの時間を要した。回数も増やした記憶がある。構成については良いかもしれないが、2回目なのでより良いクオリティにしたい。もう一回、審議をする時間があれば良いと思う。

(委員長) もう一回、評価委員会を開催することと、22日の締切を伸ばすことは可能か。

(事務局) 評価委員会をもう一度開催するとともに、意見集約の期間を延ばす方向で調整する。

(委員長) 私も1期と比べてシンプルになり過ぎている印象はある。もう1回お願いしたい。よろしいでしょうか。

(全委員) 了解。

○資料に基づき、第2期中期計画(案)について、法人が説明

(委員) 市も概ね了解されている状況なのか。

(事務局) 現在審議中の部分もあり、すべてを認めている状況ではない。

(委員) 中期目標上で表現が不適當である旨の修正を行っている。例えば「地域社会から評価される大学」、「人件費を含む経費の節減」。それを知った上で表現しているか。(No.14.39)

(法人) 検討の結果、公立大学法人であることを踏まえ、地域貢献や組織改編も考慮し、今回の表現とさせていただいた。評価委員の意見を聴き、最終的な決定はこれからとなる。

(委員) 5ページの淡水研の記載は、見込評価にも明記されているとおり、分野を限らず、広く大学として使うべきであるとされている経過を踏まえて記載されているのか。結果としてこういった理由でしなかったということがあれば仕方がないが、そうは見えない。あとは前期の評価書にある外部資金に絡む話として使い勝手の悪さへの対応が明記されていない。議論の経緯を受け止めたうえで取捨選択して計画に反映してほしい。

(委員長) 我々は意見を言う立場ですので、評価委員会での議論を踏まえて、こういう理由で反映できない等、市と大学でのすり合わせが必要でしょう。全て意見が反映されるわけではないですが、これまでの評価などをしっかり確認いただき、整理をお願いしたい。

(委員) 市で審議中の主な点はどのあたりか？

(事務局) テーマは学生の到達度の指標の部分、満足度が入っているか、論文の必修化についての確認などです。

(委員) 全体的な部分で、研究の分野に淡水研と併記している、地域福祉共生研究所の位置づけはどのようになっているか確認したい。また、淡水研については、学部、学生との関わりも議論されていたと思うが、研究所として位置付けられ、学生などとの関わりがどうなっているのかを大学にお聞きしたい。

(法人) 地域共生福祉研究所は私学からあった研究所。廃止の検討もあったが、今後も残していくことが必要という議論を経て、地域づくり総合センターの配下に位置づけて継続することを決定した。学生との直接的な関わりはないが、学内外からの研究員が集まって研究を進めている。両研究所ともに地域づくり総合センターにという構想もある。

淡水生物学研究所について、淡水研の教員は生態学等の教養科目を今年度から担当している。淡水研についても教養科目、新学部の教育に関わっていく。理工系新設にあたって、生物環境系を柱として位置づけることは、エコシステムのコースを設定することとし、地域づくり総合センターの中で地域貢献を果たす研究所として進めていく位置づけとする。

(委員長) 他の委員、いかがでしょうか。

(委員) 特にありません。

(委員長) 全体の作りとして第1期と比べると、はじめにの記載がなく、文言が絞られている。この点について、どういう考え方でスリム化したのか。

(法人) 中期目標・中期計画があって年度計画が定められている。年度評価をしていくにあたって、第1期の計画にあたっては、概念的・方針が記載されていた。評価にあたっては煩雑になっていた。評価をしやすいようにスリム化するとともに、指標を記載した。

(委員長) 理解できる部分もある。総務省の公立大学関係の会議に出席している中で、国立大学と同様に年度評価の廃止の可能性がある。公平性や透明性を担保する視点から指標化している部分がある。ステークホルダーである学生、企業、地域の満足度は必須となっている。具体的には新潟県立大学や諏訪東京理科大学など。可能な範囲で盛り込んでいただけるとよい。客観性の指標を反映することが求められている。宮崎公立大学を参考にさせていただけると良い。工程表を明示できると良い。

(法人) 2月に向け、参考にしていきたい。年度計画がなくなるという話に関連し、年度計画は公表しないが作るつもりでいる。個票を元に整理する予定でいる。認証評価対策も兼ねる。

(委員) 定めている指標は大学から見て確実にできるものか、それともチャレンジできる内容なものか。指標を高めを書くのと低めを書くのでは教職員へのメッセージも異なる。また、全職員が共有する大学ビジョンとは何を指しているか。

(法人) 第1期の平均値を出して設定した。第1期と比較し、良い方向に持って行くように設定した。

(委員長) 宮崎公立大学の例で、チャレンジ的な指標を設定した場合は、評価が緩くなる。どのような目標設定がいいのかは悩ましい問題。論文の件数は新潟県立大学に比べると低い。エビデンスがないと設定が難しい面はある。各教員にどれくらい書いたか位は確認したほうが良いのではないか。

## (2) 中期目標期間の業務実績評価(期間評価)実施要領(案)について

○資料に基づき、事務局が説明(法人による自己評価ののち、評価委員は大項目のみ評価)

(委員) 見込評価も、実施要領はあったのか。

(事務局) 見込評価の実施要領はある。法人による自己評価ののち、評価委員にも個別に評価していただいた。

(委員) 見込評価に携わったものとしては、見込評価と、期間評価でどう違ってくるのか関心を持ちました。

## 3 その他

### ・今後の進め方

○資料に基づき、事務局が説明

### ・公立大学法人長野大学理工系学部の新設及び既存学部の再編について(非公開)

### ・その他

(委員) 意見のまとめ方についてコメント。前回の中期計画に関する評価委員会の意見書は「別添のとおりとすることが適当である」となっており、私は賛同できないということで意見申し上げたが、中期計画になると、なおさら距離感があって、かつ、評価委員会での協議を踏まえていない点も見受けられる。前回のとおり、「別添のとおり」という評価委員会のまとめは避けてほしいという提案である。

1月17日の評価委員会は、市の判断がなされているものを提示してほしい。いくつかについては、相談させて欲しいというものがあるけれども良いし、過去の意見との整合性から見直すところもしっかりやってもらいたい。

評価委員会のメールは、審議の取りまとめに関する段階においては委員間で情報が共有でき、議論できるスタイルにしていただけでないかという提案である。

全委員の発言をまとめた形で、全委員に開示される流れを考えて欲しい。

(事務局) 委員の意見の取りまとめにつきましては、全員をまとめた形にしてよろしいでしょうか。できるだけ取りまとめて送信するようにしたい。

(委員) 私が言いたかったのは、その委員の意見っていうのは、その人が発言しただけではないということ、きちんと認識して運営してもらいたいということ。弾力的なやり方があるのではないかと思います。

(事務局) 事務局においてもどういったやり方が良いのか、皆さまと確認しながら進めたい。

(委員長) 大事なことは、評価委員会の意見について、市も法人も受け止めていただき、駄目なものは駄目と、一方で、受け入れていただける部分は受け入れていただきたい。

我々の役目は、市民の目線でこの大学を良くするためにということだと思しますので、よろしく願いいたします。

#### 4 閉 会